

## ● 読書感想文コンクール 中学校の部 ●

入選

斎藤 絵里子(さいとう えりこ) 桜田中 2年生

作品名：「八日目の蟬」を読んで

図 書：八日目の蟬

私がこの本を読んだきっかけは、母にすすめられたことです。せっかくなので読んでみようと思い、手に取りました。

一番最初のシーンがいきなり赤ん坊を誘拐する場面で、冒頭からすぐに主人公の動悸が伝わってきて、一気に引き込まれました。

私はまだ主人公の女性と歳が離れすぎていて、経験値も低いので正直なところあまり共感はできなかったけれど、少し離れた場所から出来事を見つめているような感覚で読みました。

この本の中でとても印象的だったのは、第一章の誘拐した後の逃避行ではなく、第二章の誘拐された赤ん坊のその後の方でした。自分は何も悪いことはしていないのに、その過去のせいで家族にも学校にもなじめないで過ごした子供時代を自分に当てはめて考えてみると、とてもたえられないだろうと思います。学校で疲れたら家で休息できて、家が疲れたら学校で友達と会って元気になれる、というふうに私の生活は成り立っているのだと思います。もしもその両方が欠けてしまって、家でも学校でもくつろげないとしたら心にゆとりが持てなくて、精神的にすごく苦痛だと思います。最近、よくニュースでいじめが原因で自殺をしてしまった中学生の話がとりあげられています。それも、学校ではいじめられて、家では無理をして元気なフリをして、というようなことを繰り返しているうちに、どこにも逃げ場がなくなってしまったのかなと思います。自分を理解して居場所を提供してくれる家族や友達は、本当にありがたい存在なのだと心から感じることができました。私も、そのような居場所を誰かに提供してあげられていたらいいな、というふうに思います。

また、第二章では、そんな過去と向き合っていく元赤ん坊の姿も描かれています。長い間苦しめられてきた事実と向き合うことはすごく難しく、大変だと思います。もしも自分が彼女の立場だったなら、その過去から逃げよう逃げようとしてしまうと思います。その方が、確実に楽な道だからです。でも、その過去をちゃんと見つめることができないと、前進しているようでも一歩も前には進めないのかなと思います。簡単に例えると、苦手な基礎の勉

強があったとします。そこを苦手だからといってとばしてしまうと、その次の单元は、理解できているようで、できていません。応用問題でその基礎を活用できないからです。まったくジャンルの違う話ではありますが、結局はそういうことかな、と思います。嫌なことは克服しなければいけないし、目をそらしても前には進めないんだと思いました。

私はこの本を読んで、人間関係の大切さや、前へ進むことの難しさを知りました。本のストーリーとは関係ないのですが、要所要所からそのようなもの学びました。これから的生活の中での様々な場面で活かしていきたいと思います。そして、これからもっと色々な本に出会い、学べたらいいなと思います。

